

6.1 カリキュラムの編成

進捗状況報告

2009年度からの学部再編に伴い、2009年度から実施するカリキュラムを大幅に改定した。特に、学部の特色である学際性・総合性に加え、専門性にも十分配慮したカリキュラムを編成した。学部全体の科目を学科横断的に履修可能にし、他学科の科目も積極的に履修するように勧めることによって、総合性・学際性を重視したカリキュラム編成となっている。

専任比率向上については、2006年度2名、2007年度4名、2008年度1名の専任教員を採用した。

学内第三者評価

総合政策学部を4学科体制に編成しながらも、「学際性・総合性」に加えて「専門性にも十分配慮した」とあるが、それが具体的にどのような形で実現できるかについて記述されることが望まれる（「学際性・総合性」と「専門性」とは一般的に二律背反すると考えられるため）。

2003年に設定した目標の「UNITeSの活動を単位化する。」「飛び級制度を実施する。」についての記述が望まれる。また、2007年度学内第三者評価に記載された『「全学部体制の再編」と「学部内のカリキュラム検討委員会」（2005年度以降設定した目標）での結果が重要な意味を持つと思われるが、その内容について来年度の自己点検・評価では詳細な記述が望まれる。』について詳細な記述が求められる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。

2003年度の設定目標に照らして、1と4は改善に向けての努力が窺われるが、2の「UNITeS活動の単位化」と3の「飛び級制度」についての進展状況はどうなのであろうか。